



第83号

発行所 NPO法人上田市身体障害者福祉協会 事務局 386-0012 上田市中央3-5-1 上田市ふれあい福祉センター内 発行人 吾妻博夫 編集人 光りの友編集委員会 印刷 スズキ総合印刷

令和四年度通常総会開催される

理事長 堀内清

六月四日(日)、四年ぶりに集會形式の総会ができました。昨年までは書面表決での開催でしたが、コロナウィルス感染者低減により皆が集つての総会が開催でき本当に良かったと思つております。参加者は二十三名で、他は委任状でした。

初めに會員物故者の靈に黙禱私の挨拶、表彰状・感謝状6名への贈呈、受賞者代表の謝辞が北部支部 中山喬司様からありました。続いて来賓者の祝辞を、土屋陽一上田市長、神津健衆議院議員、羽田次郎参議院議員、高村京子県議会



休憩後二部に入り、市川久子氏(浦里支部長)、中澤三恵氏(塩田第二支部長)の二名を議長に選出。議事に入り、令和四年度の各部の活動報告、会計報告・会計監査報告が行われ、質疑・応答がありました。令和五年度の事業計画及び予算案が提案され、出席者全員に承認され議事は終了しました。続いて役員改選について。市川久子選考委員長が三月一日(水)の選考委員会の結果を発表し承認されました。引き続き新役員の紹介があり、新理事長の吾妻博夫氏が就任挨拶し

スローガン 一、愛と連携で誰でも集える身障協 一、心と身体を整えて みんなで作る連携と輪

通常総会によせて

高木津留子

六月四日、ふれあいセンター大会議室にて令和四年度通常総会が開催されました。当日は晴天に恵まれ、会場では飾られた初夏の花々が皆様をお迎えしました。

今年より塩田プールの売店を再開することになり、担当する西川洋美厚生福祉事業部長より7月より開始する売店への協力をお願いがありました。また、日帰り旅行は六月二十六日(月)実施予定との報告もありました。最後にも集える身障協「心と身体を整えて、みんなで作る連携と輪」を唱和し閉会いたしました。

最後に、会長として残念であったことは、会員が三年間で百二十人に減少したこと、上田市連合(上身連)が解散したことです。会員減少により運営が厳しく維持することができず解散を決めたものです。令和五年度からは新役員の皆様に頑張つて頂き、行事等がコロナ以前のように行えることを祈つております。会員の皆様には、スローガンの言葉の「誰でも集える身障協」「みんなで作る連携の輪」で御協力を賜りますようお願い申し上げます。

開会のことばの後、物故者への黙とうを捧げご冥福をお祈りしました。理事長あいさつがあり、表彰式では中山喬司様、佐藤盛雄様、牧内智子様、堀内良明様、木内篤様に表彰状が、柳沢カエ子様に感謝状が贈呈されました。中山喬司様から謝辞をいただき、会場はあたたかい拍手に包まれました。来賓の方五名からお祝いの言葉とともに障がい者支援等の施策説明も頂戴しました。

休憩の後総会に入り、各部から令和四年度の活動報告、令和五年度へ向けての事業・収支予算の案が示され、それぞれが議決となりました。役員改選では、理事長に吾妻博夫氏、理事には石井貞一氏が新しく就任し、他は再任となり承認されました。また、堀内理事長と小沼敏代理事が退任となりました。多年にわたり本会の発展に労を尽くしていただき深く感謝申し上げます。最後にスローガンを全員で唱和して閉会となりました。

令和四年度 理事長表彰 受賞者御芳名 (敬称略)

【本会役員・支部長・専門部長・支部役員としての受賞者】：表彰状 中山 喬司 (北部支部)

佐藤 盛雄 (城下支部)

【本会会員にして特に模範となり支部長の推薦による受賞者】：表彰状 牧内 智子 (北部支部) 堀内 良明 (城下支部)

【重度障害の夫・妻・家族を助けて模範の受賞者】：表彰状 木内 篤 (西部支部)

【本会会員にして長年本会のために寄与、援助した者】：感謝状 柳澤カエ子 (豊殿支部)



理事長表彰 受賞者謝辞



北部支部 中山 喬司

この度はこのような表彰をしていただき、受賞者として、これほど嬉しい事はありません。身体の不自由さを克服し、仲間と助け合いながら、また、皆様に助けられながら頑張つて参る所存でございます。本日は誠にありがとうございます。ございました。

新役員紹介

- 理事長 吾妻 博夫
- 副理事長 石井 貞一
- 理事 高木津留子
- 理事 西川 洋美
- 理事 小林 睦子
- 理事 百瀬久美子
- 理事 横沢 瑛
- 理事 鈴木智恵子
- 総務部長 石井 貞一
- 会計・資金部長 高木津留子
- 厚生・福祉・事業部長 西川 洋美
- 広報部長 高木津留子
- 小林 睦子
- 専門部 女性部長 百瀬久美子



理事長就任のご挨拶

理事長 吾妻 博夫



令和五年六月四日、令和四年の通常総会に於いて理事長に選任されました吾妻です。宜しくお願い致します。何分にも力不足、勉強不足で至らないところも多々あるかと思いますが、皆様のご協力ご指導ご支援を賜りながら新しく選任されました役員と共に、障がい者の「連携と輪」を大切にしながら、障がい者の社会参加とより良い環境と福祉を目指し、活動していくつもりです。関係機関の皆様、会員家族の皆様には、常日頃から協会の活動、運営にご協力ご

退任あいさつ

前理事長 堀内 清

平成二十四年、当時の理事長井澤新一様が総会前に体調悪化のため急遽入院され、総務部長であった私が理事長代行を務めました。その後、井澤様のご逝去により私が第十二代理事長に就任しました。不束者の私でありましたが、会員の皆様、また関係機関の皆様方のご指導ご協力ご支援により任務を全うできたと深く深く感謝申し上げます。思えば十年間の長い間には、平成二十八年「真田丸」放映での活動、翌年第

支援を頂き、紙面をお借りし深く感謝申し上げます。四年前から悩まされてきました新型コロナウイルス感染症の蔓延により協会の計画致しました事業・行事も軒並み中止や延期になってしまいました。また、活動も制限され、関係機関の皆様や会員の皆様にはご迷惑をおかけし、大変申し訳ございませんでした。コロナウイルス感染症拡大も、幾度もの危機をなんとか乗り越え、昨年十月下旬ごろから少し下火となり、まだ安心できる状態ではありませんが、活動も少し緩和されてきました。協会の行事・活動もコロナウイルス感染症対策をしながら順次歩み始めました。今回の通常総会も書面による

総会に代わり、多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、四年ぶりに集会形式で開催することができました。コロナウイルス感染症拡大のため休業しておりました上田市自然運動公園のプール売店も再開されることとなり、七月八日に開店し、かつての賑わいをとりもどしております。会員の皆様には、運営にご協力頂きますことに感謝申し上げます。私も不慮の事故により障がい者となり、今年で四十七年になります。その頃に比べ「障がい者差別解消法」も施行され、障がい者の環境もずいぶん改善されてきました。上田市に於いても、現在「第三次上田市障がい者基本計画 *註1」、「第六期上田市障がい者福祉計画 *註2」が進

められており、障がい者の福祉向上を目指しております。協会におきましては、社会の多様化に伴う障がい者の協会離れ、会員の減少、会員の高齢化、活動人の減少、コロナ禍による事業不振等々、課題も多くあります。多くの人たちに参加頂く機会を増やし、より多くの意見に耳を傾けながら取り組んでいくつもりです。皆様のご支援ご協力を心からお願致します。
*註1 障がい者のための支援体制や地域一体となった環境づくりを進めることを基本方針とした上田市の基本計画
*註2 基本計画をもとにした具体的障がい者福祉計画

八回県障害者福祉大会がサントミューゼで開催、平成三十年上身邊の呼びかけによる「ろくもん」での軽井沢への旅等があり、印象深く思い出されます。残念だった事は、新型コロナウイルス発生により令和三年の協会七周年記念行事が実現できなかったこと、また、別所あいそめの湯売店が閉店になったことです。私は四期八年で退任を申し出ましたが、「コロナ禍でもあり、もう一期」ということで続けることになりました。在職十年の間これといった活躍はできず申し訳なく思っています。



す。今後は新役員の皆様へ期待し、私は一会員として協会の発展に協力していきたいと思えます。また、長野県第六十四回障害者福祉大会は、上田会場へと依頼がありましたが、諸般の事情で千曲協会にお願いし、千曲市あんずホールで開催して頂きました。結びに、私と共に退任される小沼敏代様も十年間役員として活躍され、会運営にご尽力して下さいました。ありがとうございます。お疲れさまでした。

各部活動報告

総務部

部長 石井 貞一

令和2年から拡大が始まった新型コロナウイルス感染症のために本会の行事も中止、もしくは大幅に縮小せざるを得ない状況でしたが、本年5月に感染症5類移行に伴いようやくこれまでの日常が戻ってきたつあります。しかしこの3年間で本会の状況も一層厳しいものになっています。会員の減少や高齢化が一層進み、組織の体をなさなくなりつつある支部も出てきました。他にも年々逼迫しつつある活動資金の捻出、4つに分裂している市内の身障協の問題、NPO法人としてのあり方など本会の抱える課題は山積しています。今後これらの課題について会員の皆さんのご意見を伺いつつ解決に向けて取り組んでいきたいと思えます。また身障協に未加入の身障者のみなさんにアピールできるように魅力ある会にすべく、新しい行事なども増やして行ければと考えています。

障害者にとって頼りになる身障協を目指して役員全員で取り組んで参ります。



福祉厚生事業部

部長 西川 洋美

福祉厚生事業部では、二月二十八日に城跡公園第二体育館でポッチャの交流会を行いました。マレットクラブは、毎月一回、雨での中止もありますが実施しています。また、ボランティア連絡協議会（V連）に毎月一回参加しています。

六月二十六日に日帰り旅行を実施しました。行き先は東筑摩郡筑北村の冠着荘です。良い天気に恵まれ、お昼を食べ、入浴したり談笑したりして楽しい時間を過ごしました。帰途には「道の駅あおき」に寄り買い物をしました。

コロナウイルスの影響で休止しておりました塩田プールの売店事業を、事業部の一環として四年ぶりに再開することになりました。私は初めての担当なので、仕入れの仕方・発注方法等色々教えてもらいながら、売店のオープンに向けて準備しているところです。皆様のご協力をお願いいたします。



会計部

部長 高木津留子

日頃、皆様には本会の事業にご協力いただきましてありがとうございます。

コロナ感染症も5類へ移行となり、様々な活動も日常に戻りつつあります。本会でも、今年度の通常総会を集会形式で開催することができました。

会計部では総会資料にお示した通り、令和四年度の収支決算書と今年度の会計収支予算案をご報告し、議決して頂きました。ありがとうございます。

今年度の予算書をご覧頂きますと、収入の部では、会費収入・助成金収入などは減少傾向に、支出の部では、活動再開によるそれぞれの項目予算額が増額となっており、会費収入減につきましては、会員の減少が進んでおり、大きな課題となっております。また、今年度はプール売店事業が再開され、事業収入が期待されているところです。

ともあれ、限りある収入源を有効に生かさなければなりません。会員相互の信頼関係を保ちながら、透明性を持って活動を進めていく所存です。今後ともよろしくお願致します。

専門部 女性部

部長 百瀬久美子

何年ものマスク生活、戦争、あらゆる大災害、猛暑、なんとひどい毎日でしょう。会員の皆様、お元気ででしょうか。

令和五年度の活動は三つです。十月初旬に交流会、十二月初旬にクリスマス会、来年の二月中旬に交流会を予定しています。いずれも内容はこれから検討致します。

何度もの浮き沈みがありながら、ようやくここまで回復してきた日常にほっとしていますが、コロナもなかなか油断ならず、一週間に一度の発表を見ますと、松本、長野、上田の順に感染者が増えております。

高齢化も加速しておりますが、皆様とお仲間になれましたが縁を大切に、一回も多く笑い合えるような交流会を持ちたいと思えます。安全第一に行います。男性の皆様も多数のご参加よろしくお願いたします。

一つ一つの行事が無事にできますことを祈り、楽しい集まりにして参ります。



広報部

部長 小林 睦子

「光りの友 第83号」も皆様のご協力をいただきお届けすることができました。

コロナ禍という文字が少し遠のいてきたのでしょうか、イベントでは笑顔と楽しそうな声も聞かれます。

広報部では、皆様からいろいろな話題、「こんなことがあったから、ぜひ紹介してみたい。」「私の趣味について」等もお待ちしております。

イラストなども数多く取り入れ、身体障がい者協会の活動を一人でも多くの方に知っていただけるようにしたいです。

皆様のご意見をいただきながら、これからの紙面作りを進めていきたいと考えています。

事務局だより



◆事務局の受付時間◆

☎ 9:00~17:00	☎ 午前中のみ
☎ 午前中のみ	☎ 休業
☎ 9:00~17:00	☎ 休業
☎ 9:00~17:00	

木目込みの作品
吉池つ多子(東部支部)

手帳をお持ちの方が利用できる 主な制度・サービスについて

上田市福祉部 障がい者支援課 原 恵

障害者手帳には、障がいの種類によって、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の三種類あり、手帳の種類や障がい種別、等級などに応じて、該当になる制度や利用できるサービスがあります。障がい者支援課では、手帳の交付時に、該当になる制度やサービスなどについてご案内しています。

- 福祉医療費助成制度 医療費の自己負担の軽減。該当者に福祉医療受給者証を交付。1級〜3級の 方が対象で所得制限あり。
- 自動車税・取得税の減免 手帳所持者名義の車が減免。本人が運転するか否か、また障がい種別により対象等級が異なる。
- 有料道路の割引 手帳所持者が運転する場合に半額割引。1種の手帳所持者は乗車していれば割引。令和五年度から一人一台要件が緩和され、事前登録車以外でも割引対象となる。
- タクシー利用の補助 下肢、体幹、視覚の障がいなどで1・2級の方にタクシー利用権を交付。
- 信州パーキングパーミット 優先駐車区画を利用するための利用証を交付。障がい種別により対象等級が異なる。
- 所得税・市民税の控除 申告時等級により障害者控除が適用。
- NHK受信料の減免 世帯の課税状況や等級などにより、全額または半額免除。
- 交通災害共済制度 交通事故時に見舞金給付。1級〜3級の方が対象で、手帳取得により自動加入で掛け金不要。
- 施設使用料等の減免 公共施設等様々な施設で利用料が減免。
- 交通運賃の割引 JRでは1種の手帳所持者は本人と介護者一人の運賃が半額（単独乗車は2種と同じ）。2種の手帳は100km以上の乗車で本人のみ半額。私鉄、バス、タクシーは会社により異なる。

この他、日常生活の支援や就労などに関する障がい福祉サービスがあります。また、以前よりも障がい程度が重くなったと感じたら、主治医に相談いただき等級変更の申請も可能です。障がい福祉サービスや制度について、詳しくはご相談ください。

女性部交流会に参加して

小泉支部 真保さち子

コロナウイルス感染状況により、なかなか集まる機会がなかった折、二月十三日(月)の10時から1時間30分、「踊りとおしゃべりの交流会」を実施すること。とても楽しみで、期待して参加しました。

本会の浦里支部長で上田民踊連合会会長の市川久子様の主催で、会長自らの解説のもと、会員の方々五名の踊りを観覧しました。それぞれとても優雅に優しくゆつたりと、時に力強く踊る姿に感動しました。

この日に向けて稽古を積んだ成果を出すべく全流派が協力しあい、コロナで制限されていた活動が再開され思いきり踊れる喜びがあふれているのが感じられました。それを見せたいいただいた私たちもすごく感動し、あつという間に時間が過ぎてしまいました。できればもっと見たいとアソコールをしたくなりました。会員の皆様、本当にありがとうございます。ごさいます。



シリーズ 上田の故実みち3 「櫻井純蔵」

神科第二支部 中曽根 孝一

万延元年(1860)萩(長州)藩士高杉晋作が来田、佐久間象山に面会したときに、恒川才八郎と櫻井純蔵が饗応している。その時に上田藩士らと明倫館において剣道の模範試合を執り行い(上田演舞場45名)、藩士との交流を図る。同じく長州藩士久坂玄瑞が英国公使館焼き討ち事件後、恒川・櫻井を頼り上田に来訪している。このことから、当時上田藩士の中には、薩摩・長州両藩士等と非常に近い交流をしていたことが窺える。慶応3年(1867)藩命により京都に至りその情勢を探る。予測であるが、上田藩士赤松小三郎が帰藩命令に従わない為、その説得の役目もあつたと考えられる。維新後明治4年(1871)宮内省に出仕。明治15年(1882)宮内大書記官に任命される。明治17年(1884)正五位に任ぜられる。同年死去(享年59歳)。

米熊の父三吉慎蔵とも交流があり、慎蔵日記によれば、北白川宮お付の時に何回か連絡を取り合い、明治17年11月11日死去の際には葬儀に出席をしている。この時は一時小松宮のお付も兼任しており、その代理も兼ねていたようである。

櫻井純蔵は文政9年(1826)生まれ。長沼流の兵法、宝蔵院の槍術、真陰流の剣法、萩原流の砲術等を学ぶ。嘉永3年(1850)江戸の下曾根金三郎につき砲術を習う。

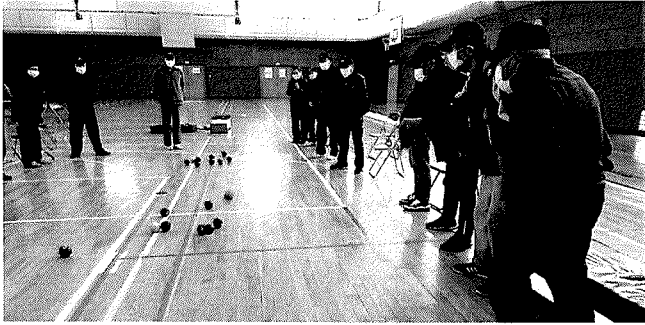
次回は、上田藩士赤松小三郎関係について独り言として書きます。

ポツチャ交流会に 参加して

塩尻支部 春原 哲夫

障害者手帳を受理して十年以上過ぎ、この頃余裕も出てきたので、身障のいろんな案内に参加してみようと思えるようになり、ポツチャ交流会に参加しました。朝方は少し寒い感じでしたが、体を動かしているうちに温まってきました。

多種多様の障害を持った参加者をまとめて準備体操から始まり、ポツチャ交流の頃にはみんなも親しく和気あいあいとなり、楽しいひと時を過ごすことができました。



感 雑

終戦当時のころの思い出

西部支部 横沢 瑛

終戦から七十八年、当時の様子や思い出を思いつづままに記します。子どもの体験記の一端です。

（この時は長野市に居住）

戦争の激しい昭和二十年四月に国民学校に入学。入学式で校長先生、「皆さんは敵前入学です。」と言って迎えていただいた（母の話）。――当時盛んに言われていた「敵前上陸」にあやかつてのことば。

いつも仲良し三人組で登下校していたが、途中で先生に行き合ふと「○先生に敬礼」と号令をかけて挨拶をした。

町内の天神さままで町をあげて出征兵士を送り出すのを見に行つた。一緒に万歳を唱えながら。

防空壕―町内の空き地に皆総出で作つたが、学校のものには校舎から離れたところにあるポプラ並木に沿つて溝を掘つただけのもの。空飛ぶ飛行機を眺めながらの避難。我が家のものは防空壕というよりは漬物置き場。――梅雨の雨で水浸しで役に立たず。

防空のため、中央通りをはじめ各通りの土蔵造りの商店の白壁が次々に黒に塗り替えられた。今でも当時のままの黒く塗つた壁の家が点在しているのを見かける。

戦況が激しくなり、国内の大都市や工業地帯が次々と大空襲を被るようになる中、長野市も艦載機が飛来し、国鉄の機関区を中心に攻撃された。後

にも先にも直接見たのはこの時だけである。後に被害状況を聞き、子どもながら恐ろしかった。

歌は、「予科練」「同期の桜」などが流行し、童謡・唱歌は隅の方へ押しやられていた。「一億火の玉」などの標語のポスターが街のあちこちに貼られ、まさに戦時色一色であった。

中でも食糧事情が最悪で、生き抜くために闇物資や農家への買い出しが盛んに行われた。幸い我が家は篠ノ井に親戚があつて、そこから分けてもらつていたが、この厳しさは戦後も五、六年続いた。

終戦の詔勅は、疎開先で近所の皆さんがラジオのある家に集まつて聞いていたが、ガーガーピーピーの音で子どもにはわからず、後で日本が負けたことを知つた次第。

八月の終戦を境に世の中が急変。まず二年生になつて、教科書の戦争に係した箇所を先生が読み上げて、その箇所を墨で黒く塗りつぶした。戦争が終わつたのを初めて実感した場であつた。学校関係でも、男女共学、国民学校から小学校へ、学制も6・3・3・4年制の施行など。

同級生の一人が当時蔓延していた赤痢で亡くなつた。衛生状態の悪い中、伝染病の怖さを初めて知つた。今までの明るい雰囲気になっていた教室に、主のいないその子の席だけがポツンとあり、虚しさを禁じ得なかつた。幼い子の心に空いた穴は、なかなか消えなかつた。

会員の声

よもやま話

良きにつけ 悪しきにつけ

東塩田支部 ダン・タイカン

あの日は、朝から晩まで落ちて着かなかつた。そう、あの日。

令和五年五月二十五日。長野県中野市が日本全国にその名を知られることになつた。『四人殺害、立てこもり事件』が起つたその日のことである。

人の噂も七十五日と言われるけれど、真夏の暑さが続く今になつても、長野県中野市の名が出ると、背筋がゾクゾクする。故郷信州にとつて、あの事件は大きな汚点となつて残つてしまつた。

一方で、NHKイブニング信州には、「がんばれ秀悟君」というスポーツコーナーがある。プロ野球、横浜DeNAの牧秀悟選手である。中野市出身で、松本第一高校から中央大を経て、今やセ・リーグの打点王。信州人の希望の星となつている。

そう言えば、NHK長野放送局にいた桑子真帆アナは、あの頃「芋ネエちゃん」などと呼ばれてもいたが、今や押しも押されぬスターだ。川口由梨香アナだつて全国版で大活躍中だ。信州の清き流れと澄んだ空気があの方々を磨きあげてくれたのだらうと思う。

この「光りの友」が発行される頃には、『良きこと多き信州信濃』が、全国の人々に染み透つてほしいものだ。ところで、このところ自分は「チョコッとを続ける」ことを心がけている。三つある。月一回、第四金曜日に仲間とともに半日ウォーキングをすること。不定期だけれど月に一回、高校の同級生と昼食会をすること。

そして、自分個人としては、一日読書百ページを目標としてガムシヤラに文章を読むこと。ただ、この読書目標は歳とともに衰えてしまった。根気と目の力と脳味噌の働きの低下で、ページ数は激減し、一日三十ページに成り下がっている。

それでも、良きにつけ悪しきにつけ、悪けりや悪いなりにチョコッとと読書と、チョコッととウォークは続けていくつもりだ。

手話コーナー

牧内 智子



あつ暑い

右手の親指を人差し指にのせて軽く握り、その手でパタパタと扇ぐ仕草をします



スイカ

両手でスイカを持って食べる仕草をします

私の提言

神科第二支部

松林 進

テレビ・新聞

間などで毎日のように報道されている地球温暖化ですが、一般の人たちはほとんど能天気のようにです。そこで政府は温室ガスCO₂を吸収する素材など革新的技術の開発拠点を国内に設けることが柱で、ノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏を責任者に起用する方針だ。

CO₂とは炭酸ガスのことで厚く地球を取り巻くガスのことです。そのガスは植物が吸収しますが、工場等

で出るガスはとでも吸収できません。そのため大部分は大気中に逃げている温暖化が進みます。地球温暖化防止策の遅れが他国に指摘される中、得意とする先進技術で世界をリードしなくてはならない。国連でも日本は石炭による火力発電が多すぎると指摘されています。原発は発熱量とコスト



トでダントツですが、東京電力の二の舞になりかねないことを考えると諸国民の理解はあまり得られず勧められません。さあ、こうなると再生可能エネルギーですが、薪では火力が足りないうえにコストも高いし時代遅れです。太陽光発電はお天気次第で安定しません。風力発電も安定した電力は得られません。安定した電力は小水力発電くらいですが、ほんのわずかが開発されただけです。全国で全部開発されるとしたら原発五基分の出力があると思われま

す。現在水力発電は日本全体で約800億kwh(全発電量の7.5%)、こ

れを少しでも水力にすることでCO₂は削減されます。今のところ石炭に優る燃料は見当たりません。さあ、大変です。どうします、皆さん。

●お詫びと訂正
● 本会の役員を長年務められ、本紙への寄稿でも大変お世話になりました松林進さんは、今年6月23日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



●お詫びと訂正
● 本号第82号4ページ「クラブ訪問 木彫クラブ」の記事中、お名前に「竹内泉原さん」とあるのは、「竹内泉春さん」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

文芸らん

川柳

金井真田丸(東御市)

頂いた大きなスイカ床の間にカラフルな傘の行列ランドセル
大丈夫心はいつもウクライナ

会員消息 (おくやみ)

生前の協会へのご協力に感謝申し上げます
ご冥福をお祈り申し上げます

- 塩尻支部 下田 幸恵 様
- 川辺支部 倉沢 房江 様
- 神科第二支部 松林 進 様
- 中塩田第一支部 大石 勝次 様
- 浦里支部 奥村 光壮 様

(2022年12月1日~2023年7月7日受理迄)

編集後記

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、長かつた三年余りの緊張がとけ、幾分ホッとしました。しかし、まだ安心という気持ちにはなかなか出来ません。かつて今まで経験したことのない未曾有の命に関わる感染症で日々不安な生活でした。▼四年ぶりに今年度の上田市身障協会総会が集会形式にて多くの来賓の方々を迎えて開会できたことは、本当に喜ばしいことでした。▼また、長い間本会の理事長としてご苦労いただいた堀内清さんと副理事長の小沼紘代さんが退任となりました。コロナ禍の中、いろいろ大変だったことと思います。本当にご苦労さまでした。▼吾妻新理事長さんはじめ、副理事長の石井貞一さんと若い役員皆さんのもとで新体制が始まります。私たちが会員も行事に参加して会員同士の親交を深め、充実した毎日を送っていきたいと思っています。▼最後になりましたが、「光りの友八十三号」に原稿をお寄せいただいた皆様、有難うございました。